



自閉症は治療する必要があるか？ 「自閉症に優しい社会を考える」

日時

平成22年 1月7日(木)
午後5時30から7時

場所

石川四高記念文化交流会館 2F
(076-262-5464)

連絡先

電話またはメールで、下記のあて先にご連絡ください。
(受付先着順となります。)
TEL 076-265-2458 (相川) FAX 076-234-4236
E-mail coebrain@med.kanazawa-u.ac.jp

定員

30名程度

参加費

無料



自閉症はスペクトラム(濃淡のまだら模様)であり、自閉症でない人との境界線を明確に引くことは難しい。ノーベル賞受賞者もいれば、異様な事件を起こすケースもある。この両極端のあいだに、個性的な職業人として活躍する人もいる一方、不登校やいじめ、職場でのトラブル、失業や精神疾患のリスクにさらされている子どもや大人たちが多数いる。早期発見・適切対応により円満な人生が送れるよう対策を講じなければならない。又、自閉症は医学的治療の対象なのか、社会的な配慮の下で共生する相手なのか、という疑問にも答えなければならない。研究者と市民の対話から自閉症に優しい学校や社会のあり方を探る。

ゲスト講師

おおい まなぶ
大井 学 さん

大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所 副研究科長
金沢大学子どもまなごころの発達研究センター教授

コーディネーター

ひがしだ はるひろ
東田 陽博

日本学術会議連携会員
金沢大学大学院医学系研究科／脳細胞遺伝子教授
金沢大学子どもまなごころの発達研究センター長